

令和4・5年度 長崎県教育委員会指定
長崎県「学びの活性化」プロジェクト実践モデル校事業

令和4・5年度 佐世保市教育委員会指定
「授業改善」

研究紀要



研究主題

自ら学び続ける児童の育成
～ 学校内外の学びをつなぎ「学びの自走」へ ～

令和5年11月17日（金）
佐世保市立江上小学校

目次

はじめに

I 研究の概要	1
1 研究主題	
2 研究仮説	
3 研究構想図	
4 研究について	
5 研究組織	
II 研究の実際	6
1 江上小学びの習慣化メソッド	6
・具体的な手立ての系統表	
・授業と家庭学習をシームレスに繋ぐ学びの流れ	
2 授業改善アプローチ	8
・メソッド①ガイド	
・メソッド②ふり返り	
3 家庭学習へのアプローチ	12
・メソッド③予習	
・メソッド④ICT活用	
・メソッド⑤チェックカード	
4 その他のアプローチ	18
①家庭学習アンケート	
②AIドリル(すららネット)活用	
③共通の学習過程の揭示	
④立腰タイム	
⑤ビジョントレーニング	
⑥家庭学習・保護者への啓発	
⑦校内研修・OJT	
⑧児童会活動	
⑨育友会の取組・地域の関わり	
III 成果と課題	25
○ 研究仮説1	
○ 研究仮説2	
おわりに	29
参考文献	
研究同人	30

はじめに

「予測が困難な時代」と学習指導要領で表現された世の中が、このコロナ禍を経て現実となりました。教育のICT化が一気に進み、児童は一人一台端末を片手に授業や家庭学習で学びを進めています。まさに「令和の日本型学校教育」が全国の学校で推進されています。

そのような中、本校は令和4年度から、長崎県「学びの活性化」プロジェクト実践モデル校事業の研究指定及び佐世保市教育委員会より「授業改善」の研究指定を受け、研究に取り組んでまいりました。児童が抱える困難が多様化・複雑化する中で、どうすれば児童の学びを保障できるのか、児童の学力を伸ばし「持続可能な社会の創り手」として育てることができるのか、研究の方法を模索してまいりました。そこで学校での学びと家庭での学びを結び付けることで、一人一人が主体的に学びに向かい、将来に向けて自身の学びを積み上げていく「自ら学び続ける児童」を育てることを目標に研究を進め、本校ならではの「学びの習慣化メソッド」を構築することとしました。研究はまだ道半ばですが、ここに研究の一端を公開させていただき、多くの忌憚のないご意見をいただくことで、本校の研究を更に深めてまいりたいと存じます。

「宿題」ではなく自らの目標を設定し、学習内容を選択したり、自分で考えて決めたりして取り組む「家庭学習」。ICTを用いた授業のふり返りや連絡、課題提出、AIドリル等による個別最適な学びの保障…。家庭での個別の学び（予習）を生かした授業改善。本校では学校と家庭がシームレスにつながって、教育効果を高め、これからの未来を担う児童の真の学ぶ力を鍛えていきます。与えられる学びではなく自分の目標に向けて自分で学びを創ることができる力。それこそが真の学力になり、児童の未来につながると信じています。

最後になりましたが、本校研究をご指導いただきました長崎県教育委員会、佐世保市教育委員会、共に児童たちのために知恵を出し支えていただきました育友会の皆様、児童に寄り添い励ましていただきました家庭・地域の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年11月17日

佐世保市立江上小学校

校長 堤 祐子

I 研究の概要

I 研究主題

自ら学び続ける児童の育成

～ 学校内外の学びをつなぎ『学びの自走』へ ～

主題に対する考え方

社会的ニーズ（課題）⇒学習指導要領のねらい⇒将来に向けて教育が目指すもの
生涯にわたり学び続ける力

本校の課題⇒主体性を高めたい。多様な児童の個別最適な学びを保障したい。
児童一人一人の将来につながる学力を高めたい。



学習意欲の向上 + 学び方の習得 ⇒ 自ら学び続ける『学びの自走』

- ・学ぶことへの感覚（意識，無意識を含めた）をポジティブなものにする。
- ・「画一的にやらされる（受動的）」→「自ら選択・決定（能動的）」⇔「やりたい」



そのための具体的手立て「学びの習慣化メソッド」を作成することとした。

2 研究仮説

学校内外の学びをつなぐ「学びの習慣化メソッド」を構築し、次の2点について研究実践を行えば、児童の学びが自走し、自ら学び続ける児童を育成することができるであろう。

仮説1 「児童に自ら選択させ、個別最適な学びを行う」

⇒ 学習意欲の向上

仮説2 「授業と家庭学習をシームレスにつなぐ」

⇒ 自ら学ぶサイクルの習得

《イメージ》

学校教育目標

「輝く学校」明るく たくましく 正しさを求める子

研究主題

自ら学び続ける児童の育成

～ 学校内外の学びをつなぎ『学びの自走』へ ～

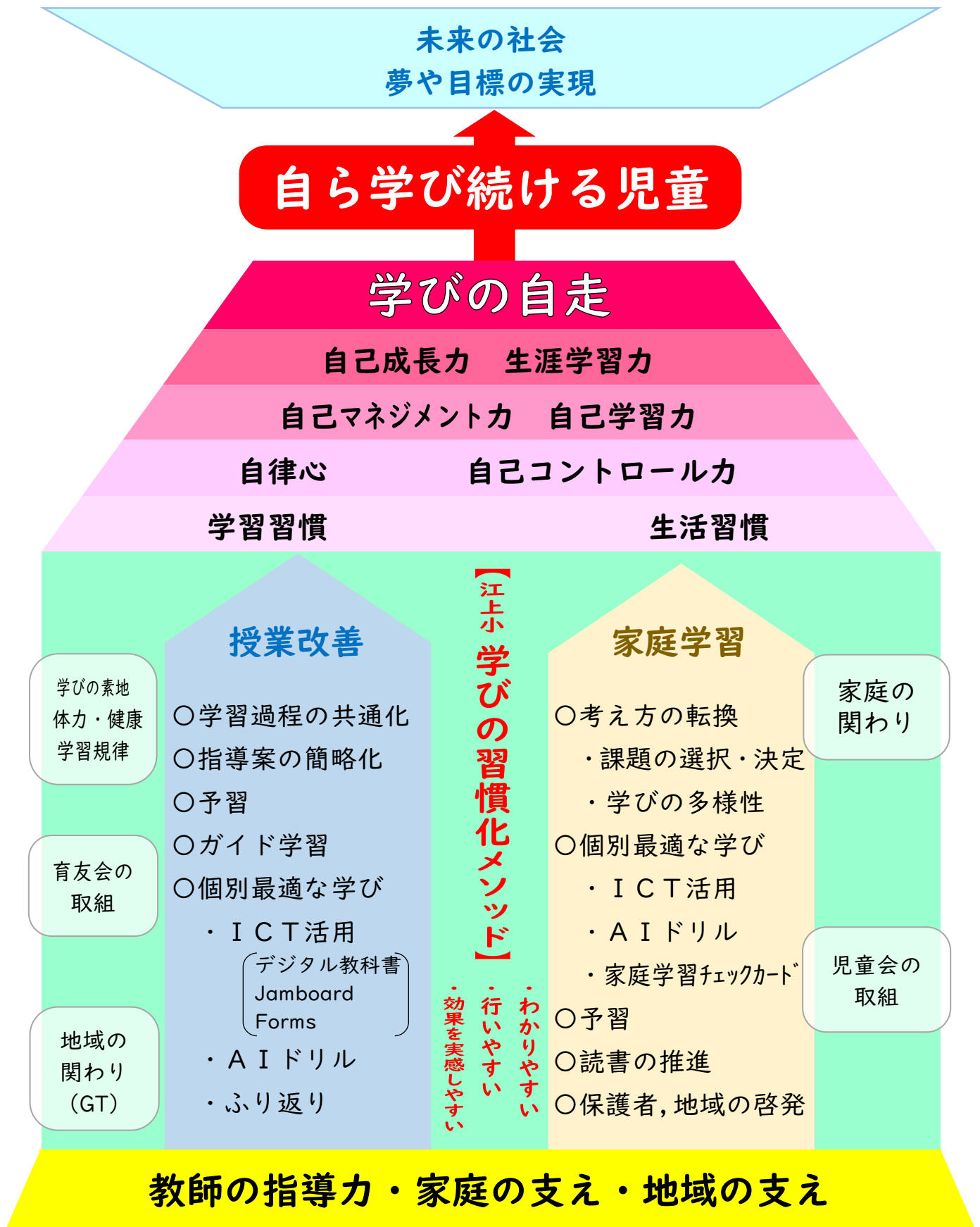
目指す児童像

主体的に学びに向かう児童

未来に広がる夢，自己実現



3 研究構想図



4 研究について

授業と家庭をつなぐ「**江上小 学びの習慣化メソッド**」構築を研究の柱とする。

「**学びの習慣化メソッド**」は 児童&保護者&教師にとって

- ・具体的な手段であること ⇒ **わかりやすい** 必要がある
- ・継続可能な取組であること ⇒ **行いやすい** 必要がある
- ・役立つものであること ⇒ **効果を実感しやすい** 必要がある

simple
(負担に感じない取組)

(1) 授業改善へのアプローチ

○ 授業においては「できるようにする楽しさを」

- ・長崎県授業改善メソッド + 江上らしさ《インクルーシブ、個別最適化》

手立て1. **共通過程と掲示** … 全学級の教室黒板横に統一した学習過程を掲示
手立て2. **予習** …… 予習を基本としながらも3段階の選択制
手立て3. **ガイド学習** …… 児童が、進行役となり授業を進める
手立て4. **ふり返り** …… 成果を自己評価し、家庭学習（自主学習）へつなぐ
手立て5. **ICT活用** …… 協働や支援に Jamboard / ふり返りに Forms など

(2) 家庭学習へのアプローチ

○ 家庭学習において「自分で学ぶ楽しさを」

課題 → 選択 → 自由

- ・「宿題」学校から出されるもの → 「家庭学習」自分で選択／自主的に取り組むものへ

手立て1. **家庭学習の考え** … 「家庭学習のすすめ」を発行、学習意識の共有
手立て2. **チェックカード** … 家庭での児童の頑張りを保護者が見る機会にする
手立て3. **予習** …… 事前に次時の教科書に目を通しておく（3段階設定）
手立て4. **ICT活用** …… eライブラリ、AIドリル（すらら）、デジタル教科書
手立て5. **読書の推進** …… 校内読書タイム、読み語り、家庭読書

(3) その他のアプローチ

手立て1. **保護者・児童の意識の向上** … 各種アンケートの実施、分析結果の共有
手立て2. **学習規律の確立** …… 立腰タイム、ビジョントレーニング
手立て3. **児童の自立を促す取組** …… 児童会主催の家庭学習コンテスト

5 研究組織

校長

教頭

【 校内推進委員会 】

校長，教頭，教務，研究主任，副主任，各部リーダー

【 学年部会 】

低学年 《久野》	中学年 《平島》	高学年 《大山》
久保（1年） 山下（1年）	平島（3年） 角田（3年）	大山（5年） 古川（5年）
東（2年） 松本（2年）	佐藤（4年） 松尾（4年）	松村（6年） 吉田（6年）
久野（特支・知）	竹川（特支・情）	藤瀬（特支・病） 田嶋（教務）
原（養護） 大浦（特支補助）	湯川（事務） 石瀧（非常勤）	戸田（少人数） 高島（ICT）

【メソッド構築PJ】《松村》

「学びの習慣化メソッド」の実践・検証

久保・東・角田・平島・大山・吉田
戸田・石瀧・大浦

【データ分析・環境構築PJ】《古川》

校内環境整備及びアンケート等資料の作成・分析

久野・山下・松本・竹川・佐藤・松尾
藤瀬・田嶋・原・湯川・高島

※PJ=プロジェクトの略

《メモ》



II 研究の実際

1 江上小 学びの習慣化メソッド (江メソッド)

具体的な手立ての系統表

高学年目標 家庭学習で**選択学習**と**自主学習**に取り組む。

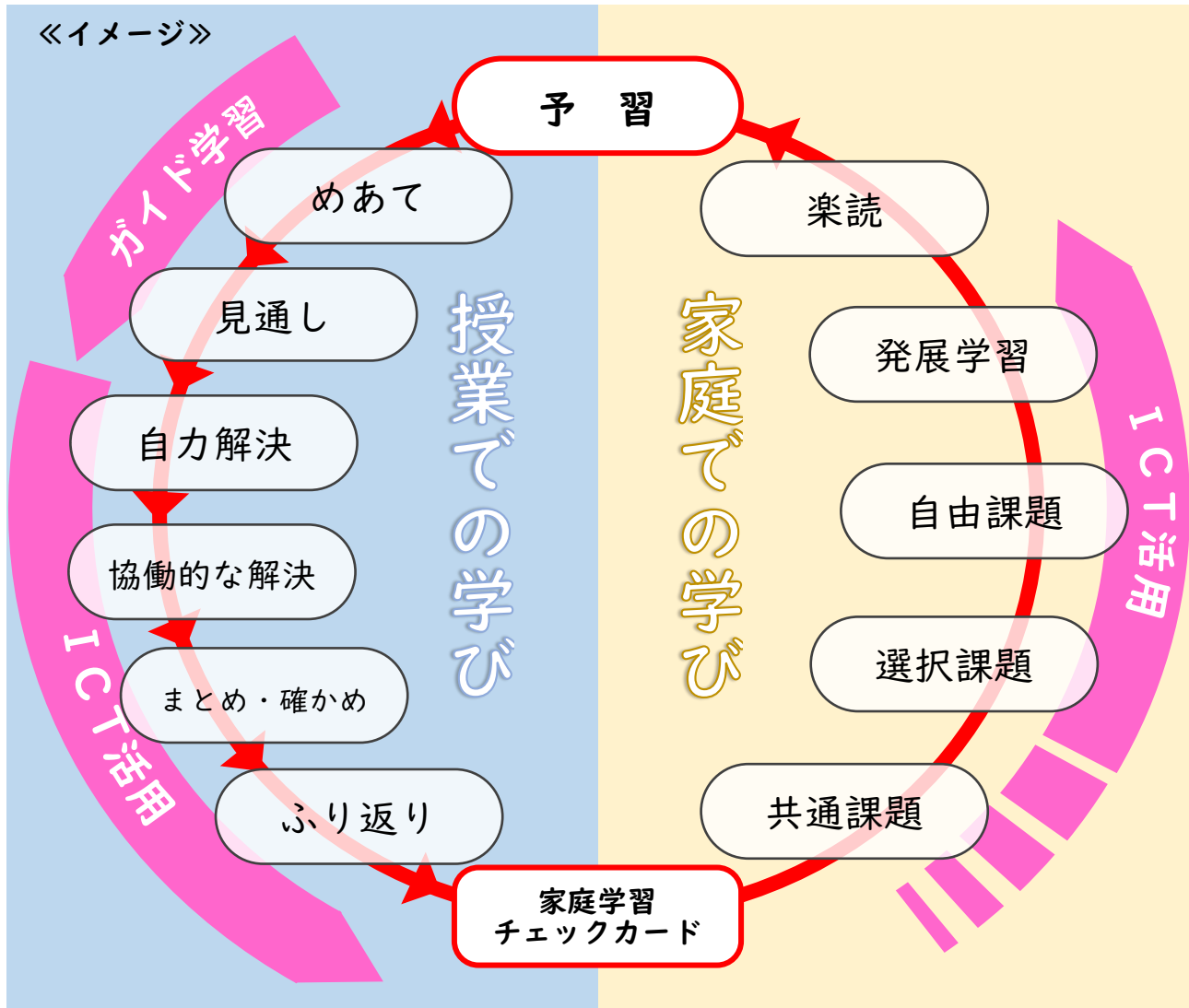
中学年目標 家庭学習で自分に必要な学習を**選択**して取り組む。

低学年目標 **共通の課題**にきちんと取り組む基盤をつくる。

場面	手立て (メソッド番号)	効果	内容		
			低学年	中学年	高学年
授業	学習過程掲示	見通し(授業の流れ) 安心感 主体性	「授業(児童の活動)の流れ」を教室に掲示する。		
	ガイド ①	主体性 支持的風土	児童が教師と共にめあてをたて、自分たちで確かめ合う。	児童が自分でめあてをたて、学び合う。 (教師はサポーター) ・授業の進行をする。	児童が自分たちの言葉で授業を進行し、自分たちで学びを深める。 (教師はサポーター)
	ふり返り ②	メタ認知 主体性	児童の発言等で本時の学びを確認し、具体的な家庭学習へとつなぐ。	ノト or Forms で本時の学びを確認し具体的な家庭学習へとつなぐ。	Forms で本時の学びを確認し、具体的な家庭学習の内容をチェックカードに書き込む。
	予習 ③	見通し(本時の内容) 主体性 理解・定着 達成感	授業で学習した内容に応じた課題に取り組む。 (復習をしっかりとすることで、次時の入りをスムーズにし、中学年以降の「予習」につなげる)	教科書(次回学習ページ)を読む。(Lv.1) ※レベル表参照 ・声に出して教科書を読む。	教科書(次回学習ページ)を読み、めあてをたてる。(Lv.3) ※レベル表参照 ・めあてをノートに書く。
	ICT活用 ④	興味関心 視聴覚 個別最適 メタ認知	【導入】デジタル教科書 【自力解決】Jamboard 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ 【連絡】classroom ※PC…発達段階に応じ、教師が指定した日に持ち帰る。	【導入】デジタル教科書 【思考】Jamboard(共有) 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ すらら(AIドリル) 【連絡】classroom ※PC…毎日持ち帰る。	【導入】デジタル教科書 【思考】Jamboard(共有) 【ふり返り】Forms 【家庭学習】eライブラリ すらら(AIドリル) 自主学習 ・自学ノート ・スライド など 【連絡】classroom ※PC…毎日持ち帰る。
	チェックカード ⑤	保護者の関与 承認欲求補充 学び方 (個別最適)	家庭学習の最後に、保護者のサイン(印)をもらう。 【内容】課題	【内容】課題+選択	【内容】選択(課題も選択の一つ) +自主学習
家庭学習	読書(楽読)	本好きにする (語彙力・読解力・知の習得)	家庭学習の最後には読書を楽しむ。 ・親子読書のすすめ	家庭学習の最後に3分間は読書を楽しむ。その後の時間や回数の制限なし。	

授業と家庭学習をシームレスにつなぐ学びの流れ

《イメージ》



家庭学習とは

教師から一方的に与える「宿題」ではなく、児童が主体的に学びを行うこと。個の学習状況や特性に応じて、必要な学び（補充）や、より興味のあることを幅広く、または深く学ぶ。

学年をまたいだ内容の学習や、様々な技能、経験も学びであり、保護者のもとで自由に学びを楽しませたい。個別最適な学びを実践するものである。

予習とは

教科書（次時）を見て大まかな授業の内容の見通しをもつこと。「わかる」「できる」までは求めない。なお低学年においての本時の復習や、単元の導入時に行うレディネスの確認等も、次の授業へ向けての準備という意味で「予習」と捉える。予習をすることで次時の授業内容が予測ができ、（低位の児童や特性を持った児童も）安心して学習に向き合える。

2 授業改善アプローチ

① メソッド ① ガイド

目的 主体的に学ぶ姿勢と多様性を受容する支持的風土を醸成する。

方法 学習の進行役を児童（ガイド）が務める。

内容

- ① 「ガイド学習」は複式学級で児童が自分たちで授業を進める授業形態であるが、形より「**児童が主体者**」で「**教師は支援者**」であるという本質を大切にする。児童が授業を進め、教師が俯瞰的に授業を見ることができるようになれば、個に応じた支援がしやすくなる。
※ ①メソッド「授業展開揭示」は、児童が授業を進める道標になる。
- ② 児童同士で授業を進めると、相手の気持ちを汲んだり支え合ったりする意識が自然と芽生え支持的風土を育まれる。児童の言葉を大切にして授業を展開し、教師は、学びの必要性を感じさせ（動機づけを促し）たり、児童の思考を深めるためにゆさぶりをかけたり、共感して安心感を与え足りる言葉かけて学習効果を高める。
※ ただし教えるべきことや、教えるべきときは躊躇せず教える。
- ③ 「自分から学ぶ力」を育むために、児童同士が「教え合う」こと以上に、「**自分から尋ねる（分からない方が聞く）力**」を大切に。自分から尋ねることができるようになるために【**してよい**】（聞いてよい、調べてよい、動いてよい、話してよい）という受容的な雰囲気の中で主体的に動く力をつけていく。

【低学年】

第1学年 単元名「ひき算(2)」(第4/11時)

- ねらい** ・学習の流れ（授業の過程）を身に付ける。本時では特に「めあて」をもつことができるよう、課題（学びの必要性）を見いだす。
・児童が互いの言葉を大切にしながら、学級の支持的風土の醸成につなげる。
- 手立て** ・教師が共に学ぶ姿の手本となり、児童の言葉を大切にしながら授業を進める。



教師が児童の疑問や**学びの必要感**を引き出しながら、どのようなことが学習の「めあて」になるのか、児童と一緒に「めあて」を設定している。

- 効果** ・学習の流れが定着し、教師と一緒に言葉を大切にしながら「めあて」を立てることができ、主体的に学ぶ意欲が高まった。

【中学年】

第4学年 単元名「割合～何倍になるかを考えて～」(第3/4時)

- ねらい**
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成
 - ・学級の支持的風土の醸成
- 手立て**
- ・事前にガイドの話型や手順を決めておくことで、ガイド児童が自信をもって進行できるようにし、教師は流れが途切れないようにサポートする。



ガイドによる問題文の確認



ガイドによる発問や進行

- 効果**
- ・学習のスタートに全員が集中することができ、主体的な学びにつながった。
 - ・ガイドに協力しながら自分たちで学習を進めようとする雰囲気ができた。

【高学年】

第6学年 単元名「資料の調べ方」(第5/8時)

- ねらい**
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成
 - ・学級の支持的風土の醸成
- 手立て**
- ・児童が自分たちの言葉で授業を進行し、自分たちで学びを深めることができるように教師はサポートを行う。



ガイドによる進行



ガイドによる板書



ガイドと共に学ぶ

- 効果**
- ・学力差によらず学級すべての児童が主体的に学習課題に向き合うことができた。
 - ・ガイド児童に協力しようとする態度が支持的風土の醸成につながった。

メソッド② ふり返り

目的 メタ認知力を高め、自主的に学ぶ意識を育てる。

方法 各授業の終末に本時の学びが身に付いたかを確認する。

内容

- ① 毎時間の授業で「何を学んだか」(できるようになったか)を各自確認することで、メタ認知力(自らのどこができて、どこができていないか認知する力)を高めつつ、家庭で学習する動機づけや意欲を高める(3～5段階評価)。また、終末にふり返りを設定することで「自分でできるようになるまでがんばろう」という授業への主体的参加につながる。
 - ・弱点を克服するために練習をする。
 - ・できるようになったことを楽しみ、積極的にいろいろな問題に取り組む。
- ② 学んだことを、社会生活にリンクさせることで、学ぶ目的意識をもたせ、意欲を高める。
 - ・どんなことに生かせるだろうか? どこで利用されているだろうか?
 - ・学んだことを使ってしてみたいこと、調べてみたいことなど、発展的に考えを広げる。
- ③ 学年が上がるにつれて、既習内容(含下学年)とのつながりを考えさせ、自らに合った家庭学習の内容選択につなげる。

【ふり返り】
メタ認知

【家庭学習】

・復習・予習・自主学習
(学びを補う/深める/広げる)

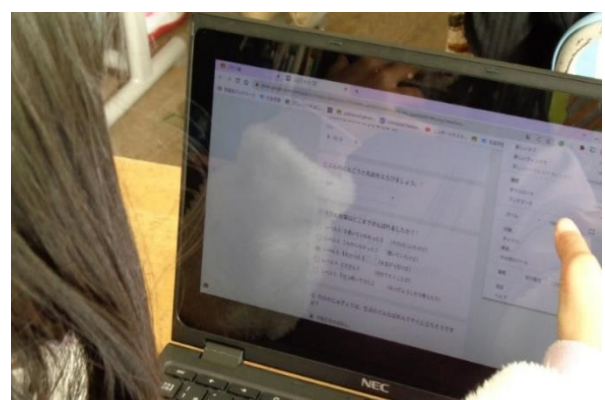
【低学年】

第2学年 単元名「かけ算(2)」(第12/13時)

- ねらい** ・よくできたところや努力が必要なところについて自己評価することで、具体的な家庭学習へとつなぐ。
- 手立て** ・自己評価の視点を児童と共有し、まずは挙手により確認し、段階的に Forms への記入に移行していく。



低学年の最初は挙手によるふり返り



Formsによるふり返り。簡単な内容で負担なく行うことができた。

効果 ・「できた・わかった」という自己肯定感が高まった。また、学習内容の確実な定着を図るための家庭学習の課題へつなげることができた。

【中学年】

第4学年 単元名「割合～何倍になるかを考えて～」(第3/4時)

- ねらい**
- ・本時の学びを児童自身がつかむことができる。
 - ・自分の理解を定着させるための個別最適な学びへつなぐ。
 - ・次時への意欲を高める。
- 手立て**
- ・Forms を活用し、ふり返りの視点を一人一人に意識させる。
 - ・自分の理解に合わせた課題を家庭学習チェックカードに書かせる。
 - ・本時の学びを家庭学習で取り組むよう個に応じた声をかけ支援する。

① 今日の授業はどこまでがんばれましたか？ *

- レベル1.【聞いていなかった】 (その場にいたけど)
- レベル2.【わからなかった】 (聞いていたけど)
- レベル3.【わかった】 (まちがったけど)
- レベル4.【できた】 (自力で解くことが)
- レベル5.【説明できた】 (発表したり教えたり)

② きょうの授業で学んだことは何ですか？ (知ったこと・できたこと・友達のよかったところなど)

記述式テキスト (短文回答)

③ 今日の授業は、生活のどんな場面で役立つそうですか？

記述式テキスト (短文回答)

④ 疑問に思ったことがあれば書いてください (わからなかったこと、まちがえやすいところ、もっと調べたいこと など)

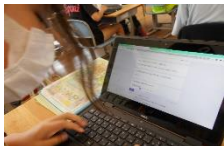
記述式テキスト (短文回答)

- 効果**
- ・本時の学びをつかみ、さらに家庭学習で取り組んだことで次時への意欲が高まり、主体的な学びへとつながった。

【高学年】

第6学年 単元名「資料の調べ方」(第5/8時)

- ねらい**
- ・本時の学習で何がわかったのか、何がわからないのか児童自身で把握させ、分からないことに取り組む家庭学習へとつなぐ。
 - ・学級での理解度を把握し、次回の授業で活用する。
- 手立て**
- ・Forms を活用し、本時の学びは前学年のどの学びを生かしているのかを把握させる。



【ふりかえり】

今日の授業をふりかえりましょう

⑤ 今日の学びには、今までに学習したどんな能力が必要だと思いますか？

- 3年「整数のかけ算・わり算」
- 3年「たし・ひきの筆算」
- 3年「整数と小数」
- 3年「1.万をこえる数」
- 6年「分数・整数・小数・整数」
- 6年「分数の分数」
- 6年「分数÷分数」
- その他

●今日の授業はどこまでできましたか？ ※ラジオボタン

- レベル1【聞いてなかった】(その場にいたけど)
- レベル2【わからなかった】(聞いていたけど)
- レベル3【わかった】(まちがったけど)
- レベル4【できた】(自力で解くことが)
- レベル5【説明できた】(発表したり教えたり)

●今日の授業で自分が学んだこと(できるようになったこと)は何ですか？
「※記述回答」

●今日の学びには、今までに学習したどんな能力が必要だと思いますか？

※チェックボックス

- 3年「整数のかけ算・わり算」
- 3年「たし・ひきの筆算」
- ： (3～6年生の既習単元)
- 6年「分数÷分数」
- その他

●今日の学びは、どんな時(場面)に使えるそうですか？
(または、もっと調べたいこと《疑問点》があれば教えてください)
「※記述回答」

- 効果**
- ・振り返りによって既習の方法と比べてヒストグラムのよさを確認し、次時の意欲へつなげることができた。
 - ・Forms の集計機能により教師が児童の理解度を把握し、次時の指導に生かされた。

3 家庭学習へのアプローチ

◇メソッド③ 予習

目的 見通しをもたせ、主体的かつ安心して学習へ向かわせる。

方法 家庭学習において、次時の学習内容について知る。

内容

- ① 授業の初めの1分間学習する教科書のページを読ませ、家庭での予習につなぐ。学びへの見通しと安心感を与え、「予習のよさ」と「手軽さ」を実感させる。
- ② 必ず有用性を実感させてから「予習」を開始する。それによって予習をするか、しないかでは、した方がよいという「選択」を児童自身ができるようにする。
- ③ 【家庭学習のすすめ】(保護者配付プリント)にて周知を図り、その後の継続や深化を、保護者に共に促していく。

(※一部抜粋)

授業への見通しをもつことができ、(学びに向かう)効果は絶大!!

まずはLv.1で十分OK!!
続けることが大切だよ

Lv.1	次の授業で学習するページ(教科書)を読むだけ ※ 問題を解く必要はなく、わからないところそのままOK!!
Lv.2	ポイントに線を引く。(疑問【?】に思ったところや、大事だと思うところ)
Lv.3	次の授業の『めあて』をたてる。(事前に意味調べをしたり、問題を解いたりしてみてもいいね)

【低学年】

第2学年 単元名「かけ算(2)」(第12/13時)

ねらい ・前時の学習の確認をすることで、スムーズに本時の学習へつなぐ。

手立て ・復習プリントを中心に、教師が(共通の)課題を出す。



共通の課題で習得した前時の学びの確認から、本時のめあてを導き出した。

効果 ・授業のスタートの集中力が増し、スムーズに課題をつかむことができた。
・前時の学習のふり返りから同じ数のまとまりに目を付け、かけ算を使って求めることができることに気づき、児童全員が自力解決できた。

【中学年】

第4学年 単元名「割合～何倍になるかを考えて～」(第3 / 4時)

- ねらい ・課題意識をもって学習活動に臨むことができるようにする。
手立て ・事前に教科書に目を通させ、学習の見通しをもたせる。

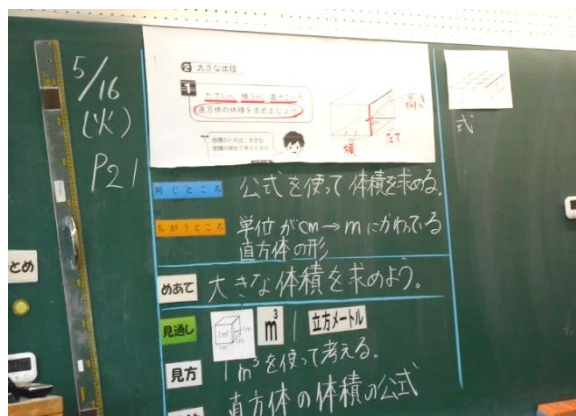


- 効果 ・数量やキーワードにスムーズに気づいたことで発表意欲が高まり、主体的な課題解決につながった。

【高学年】

第5学年 単元名「体積」(第4 / 9時)

- ねらい ・個々に合った本時の「ねらい」を設定し、主体的に学びに向かう。
手立て ・予習で教科書を読み疑問や解決の見通しをもたせ、本時のめあてを考えさせる。(予め Forms に入力させておく)



- 効果 ・児童が本時の学習に主体的に参加でき、他者との協働的な学習をより教育効果の高いものにすることができた。
・ほとんどの児童が予習の level 3 (めあてを立てる) に到達し、学習内容の理解を高めることができた。

メソッド④ ICT 活用

目的 学校内外において個別最適な学習に取り組むことができる。

方法 授業では視聴覚教材や学びを共有する道具として活用する。
家庭では問題集や自主学習道具、連絡手段として活用する。

内容

- ① 中学年以上には毎日 Chromebook を持ち帰らせることを基本とする。
 - ・充電器は家庭で保管し、家庭で充電する。
 - ・家庭学習に必要な教科書は学校に置いておき、必要な物のみ持ち帰らせる。
 - ・クラスルームにその日の連絡をすることで時間短縮につなげ、家庭学習の時間を確保する。
- ② ICTドリルは、**個に応じた内容に取り組むことができる**。自動で採点されるため「やり直す（理解し直す）」ことに時間を割くことができ、『**できるようになる**』ことを目指せる。
 - ・「**eライブラリ**」は解答が選択式かつ同じ問題が出るため、できるまで何度も繰り返し挑戦できる。メタ認知を高めながらどの学年のどの単元を学習するか選択できるよさがある。
 - ・「**AIドリル(すらら)**」は解答が記述式、かつ毎回異なる問題が出るため、より深い理解の確認が可能。個に応じた問題や同系統の他学年の解説や練習問題に取り組める。
 - ・得意な児童はより難易度の高い問題や先の学年に、苦手な児童はより難易度の低い問題や前の学年に戻って学び直すことができる。
- ③ 授業では、学習者用端末やデジタル教科書（視聴覚教材）の利活用によって、児童の興味関心を高めたり、理解を促したりすることができる。また協働的な学びの場面では、「共有」機能を用いることで、多様な考え方に触れたり、他者の考えを参考にしたりしながら学びを深めることができる。



【低学年】

第2学年 単元名「かけ算(2)」(第12/13時)

- ねらい** ・本時の学びで一人一人に興味関心をもたせ、児童の主体的な学習につなげる。
- 手立て** ・デジタル教科書を活用した授業を展開する。
・Jamboard を活用して自力解決から協働的な学びへつなげる。
・確かめ問題を解き終えた児童から、その児童の理解度に応じた e ライブラリの練習問題に取り組ませる。



タッチパネルで10のまとまりを囲んでいる。(Jamboard)

- 効果** ・Jamboard を活用し、図や式を指で書き込ませたものをお互いに見せて説明し合うことができ、他者の考えを参考にしたり、自分の考えを深めたりすることができた。

【中学年】

第4学年 単元名「割合～何倍になるかを考えて～」(第3/4時)

- ねらい**
- ・問題を視覚的に捉えて問題への理解を深め、主体的に本時の学びへ向かう態度を整える。
 - ・Forms を活用したふり返しを行い、一人一人が本時の学習内容や努力したことを認識することで、家庭学習課題の選択につなぐ。
- 手立て**
- ・デジタル教科書を活用する。
 - ・教師がふり返しにより一人一人の理解度を把握し、児童の理解に寄り添った支援を行い個別最適な学習につなぐ。

デジタル教科書をつかった協働での解決



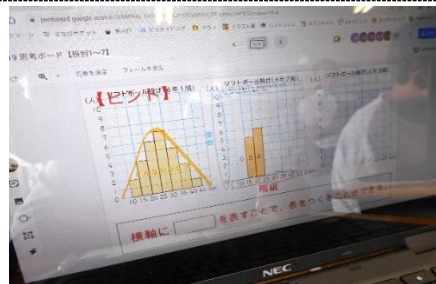
Forms をつかってのふり返し

- 効果**
- ・デジタル教科書を活用することで、児童が予習と本時の学びがつながる実感を持ち、主体的な学びへ向かうことができた。
 - ・Forms を活用したふり返りが、個別最適な学びへつながった。

【高学年】

第6学年 単元名「資料の調べ方」(第5/8時)

- ねらい**
- ・自力解決及び協働解決の場面で Jamboard を活用し、深い学びにつなげる。
 - ・児童の理解度や興味に合わせた個別最適な学びを保障する。
 - ・Forms をふり返りで活用して、本時のふり返しと共に家庭学習へとつなげることができる。
- 手立て**
- ・デジタル教科書を活用した授業を展開する。
 - ・個に応じた支援として、Jamboard にヒントカードを掲示する。必要に応じて閲覧可能にし、全員が話し合いに参加できるようにする。
 - ・確かめ問題を解き終えた児童から、自分の理解度に応じた AI ドリルや e ライブラリを選択させ、取り組ませる。



- 効果**
- ・どの児童も自分の意見をもち活発に対話することができ、深い学びへとつながった。
 - ・AI ドリルや e ライブラリの取組で、自分の苦手なところを克服することができた。
 - ・Forms の活用で、家庭学習で取り組む学習内容をより明確にすることができた。

メソッド⑤ チェックカード

目的 児童の学びへの保護者の関わり及び学びの個別最適化を図る。

方法 チェックカード形式を用い、児童に家庭学習計画を立てさせ、家庭学習後は保護者がチェックを行う。

内容

① 【学校で】発達段階に応じて、児童が自分の家庭学習を自分で決定してカードに書き込む。(共通→選択→自由)

② 【家庭で】保護者に家庭学習のチェックをお願いし、サインをしてもらう。保護者が負担に感じず続けることのできる「児童の頑張りを『みる』(知る)」ということで、児童の家庭学習へ保護者の関わりを図る。

子供は、見られている(関心をもたれている)とがんばれます!!...でも見られていなければ、しなくなってしまう(まだ自らを律する力が弱い)というもまた、子供あるあるです。

保護者が、子供のがんばり(学習内容)を確認し、学習チェックカードへ「サイン(押印)」をお願いします。

※ 努力を認める声かけや、カードへちょっとした書き込みなど、できるときでよいので、ぜひされてください。やっぱり嬉しいものです。

できれば・・・	子供が学習が終わった後に、その内容を聞く。	▶ 関心をもち励ます 努力を認める
さらにできれば	子供が学習している様子を、見ている。	
もっとも可能ならば	子供のそばについて、一緒に学習する(教える)。	

※ 高学年になると児童が自分でサインをしてしまうことがあります。その場合は押印をお願いします。

※ 「家庭学習」は本来、各家庭が、各々の判断によって行うものですので、保護者の方が家庭の事情や子供さんの実態に合わせて、内容や量を調節したり、体調に合わせて早く寝せて休ませる日があったりしてもよいのではないのでしょうか。そのような場合も含め、最終的に「保護者の方がOKを出しましたよ」という証明のためにも、サインをお願いします。

③ 【家庭学習のすすめ】(保護者配付プリント)にて周知を図り、保護者と共に励ましていく。

【低学年】

第2学年 単元名「かけ算(2)」(第12/13時)

ねらい ・児童の頑張りを認め、学習への意欲や自信につなげる。

手立て ・保護者や担任から声かけやサインをもらうことで、家庭と学校の両方から賞賛される機会を作る。

月日	国語の音読	計算カード	かん字	算 よめう	力外	e ライブラ リ	その他 (読書・日 記など)	家の人	先生
6/28	ミリーのすてきなぼうし	9	0		0		9		(印)
7/1	ミリーのすてきなぼうし	0		0					(印)
7/2	ミリーのすてきなぼうし	0		0			0		(印)
7/3	ミリーのすてきなぼうし	0	0		0				(印)

効果 ・何をするのか、何をしたのかが明確になり、児童が主体的に取り組めた。
 ・保護者や担任からサインをもらうことで、児童の頑張りを賞賛する機会が増えた。
 ・保護者がカードを見ることで、児童の学びを気がけるようになった。家庭でも児童の学びを見守る機会が増え、学びの定着が図られた。

【中学年】

- ねらい** ・チェックカードの構成を工夫することで、読解力の向上と家庭学習の習慣化を図る。
- 手立て** ・項目の順に従って「算数の予習」「家庭学習」を行う。
 ・「自学」の中に「音読」を入れ、自主的に声に出して文字を読むことを奨励する。

月日	読んだものの題名	時間	書籍	音読	自学	家の人	先生
7/3	おいごのヤマネコ	15分	P74	音読	立読み		音
7/4	おいごのヤマネコ	15分	P78	音読	立読み		音
7/5	犬ロボ走りまわす	25分	P78	音読	立読み		音
7/6	つかぬ! 玉狸木ダマ②	30分	P83	音読	立読み		音
7/7	つかぬ! 玉狸木ダマ②	40分	P84	音読	立読み		音
7/8	つかぬ! 玉狸木ダマ②	30分	P84	音読	立読み		音

家庭学習の記録

<ひとこと日記>

月	日記内容
月	今日お母さんかじきょうを見にきました。
火	今日の本は、三日で読んで合計で40分でした。
水	今日の本は、とてもおもしろかったです。
木	5月に予約していた本がやっとかかりました。
金	今日の本は、おもしろかったので、明日とモ予約しに行きます。
土/日	今日の本がおもしろいので、5回くらい音読みしました。

同じ用紙の下部には一言日記

- 効果** ・学習の進め方がより具体的になったため、学習が苦手な児童も順番に従って学習し、意欲的に取り組むようになった。
 ・教科書だけでなく、いろいろな本の音読に取り組む児童が増えた。

【高学年】

第6学年 単元名「資料の調べ方」(第3/8時)

- ねらい** ・家庭学習で取り組む内容をチェックカードに記入し、主体的に取り組むことができるようにする。
 ・児童の頑張りを認め、学習への意欲や自信につなげる。
- 手立て** ・授業の終末のふり返りのあと、チェックカードに家庭での学習項目を記入させ、家庭学習で取り組む内容を自己決定させる。
 ・保護者や担任からサインをもらうことで、家庭と学校の両方から賞賛される機会を作る。

家庭学習チェックカード 名前 ()

毎日必ずお家の人に見てもらい、□にサイン(印)をもらいましょう。

1【自己評価】 ◎とてもがんばった ○がんばった △少しがんばれた

2【予習レベル】 Lv.1 教科書を読む Lv.2 線を引く Lv.3 めあてをたてる

漢字	予習	読書	音読
えう(ア)	予習	読書	音読
すらら	予習	読書	音読
自主学習	予習	読書	音読



- 効果** ・児童一人一人が自分に合った学習計画を立て、主体的に家庭学習に取り組めた。
 ・児童の頑張りを本人だけでなく保護者にも伝える機会が増え、児童の自信につながった。
 ・「励ましのコメント」を書いたり、子供に寄り添った声かけをしたりするなど家庭学習に積極的に関わる保護者が増えた。

3 その他のアプローチ

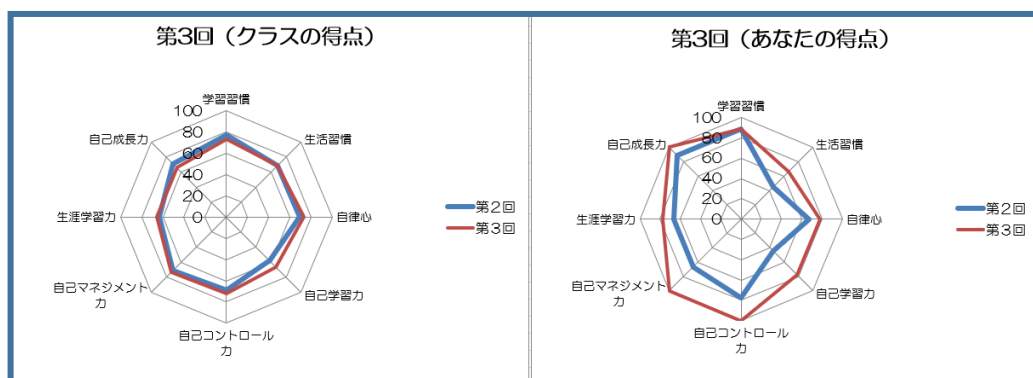
① 家庭学習アンケート

◆ 児童が学習や生活の実態を自覚し、自己の学習習慣の改善を図るため、全学年及び保護者に対して、Forms を使って定期的にアンケートを実施した。

(参考：早稲田大教職大学院 田中博之教授の研究を参考に、同意を得て実施)

【児童の個票より】

家庭学習力アンケートの結果		6 年 組		番		今までの平均値 (クラスの平均)			
		第1回		第2回				第3回	
		回答	平均値	回答	平均値			回答	平均値
学習習慣	①宿題 学校の課題を全部やりとげて、提出日に先生に出しています。	4		4		4		4.0	
	②習慣 家庭学習の時間と内容を決めて、毎日こつこつと取り組んでいます。	2	3.0	4	3.7	3	3.7	3.0	3.4
	③復習 学校の授業で学んだことを、家に帰ってから復習しています。	3	(3.1)	3	(3.3)	4	(3.2)	3.3	(3.1)
生活習慣	④時間 一日にテレビを見る時間や、ゲームやメールをする時間を決めています。	1		3		2		2.0	
	⑤睡眠 毎日、早寝早起きをしています。	2	2.0	2	2.3	3	3.0	2.3	2.4
	⑥食事 毎日ほとんど同じ時刻に、朝ご飯と晩ご飯を食べています。	3	(2.8)	2	(3.1)	4	(3.1)	3.0	(3.0)
自律心	⑦準備 次の日の授業に必要な教科書やノートなどは前の日の夜に、自分で準備しています。	2		3		3		2.7	
	⑧整理 家では学習をしている場所を整理し、いらぬものはかたづけています。	3	2.7	3	3.0	3	3.3	3.0	3.0
	⑨自律 学校の先生やお家の人にいわなくても、自分から進んで家庭学習をしています。	3	(3.0)	3	(3.1)	4	(3.2)	3.3	(3.1)
自己学習力	⑩計画 学校のテストや試験の前には、家で計画を立てて学習にとりかかっています。	2		3		3		2.7	
	⑪目標 ページ数や問題の数、時間、点数など、やりとげる目標を決めて学習しています。	2	1.7	2	2.3	3	3.3	2.3	2.4
	⑫教えあい 学校の友だちと、宿題や自主勉強について教えあったり励ましあったりしています。	1	(2.6)	2	(2.7)	4	(3.0)	2.3	(2.8)
自己コントロール力	⑬苦手 家で学習するときは、苦手な教科もしっかりと学習しています。	2		4		4		3.3	
	⑭集中 家では、テレビやゲーム機、ケータイなどをつけないで集中して学習しています。	4	2.7	4	3.3	4	4.0	4.0	3.3
	⑮克服 やりたくない難しい問題や課題でも、自分から進んで学習しています。	2	(2.9)	2	(3.1)	4	(3.2)	2.7	(3.1)
自己マネジメント力	⑯記録 毎日家でどんな学習をしたか、ノートなどに記録をつけるようにしています。	3		4		4		3.7	
	⑰反省 計画したとおりに家で学習できたかどうか、ふり返って反省しています。	1	2.0	2	3.0	4	4.0	2.3	3.0
	⑱改善 自分の家庭学習のしかたをふり返って、改善しています。	2	(2.9)	3	(3.1)	4	(3.2)	3.0	(3.1)
生涯学習力	⑲社会 ふだんからテレビのニュースや新聞記事で、社会の動きを知るようにしています。	3		3		3		3.0	
	⑳辞書 家でも辞書を引いたり、事典やインターネットでわからないことを調べています。	2	2.3	2	3.0	3	3.3	2.3	2.9
	㉑読書 マンガだけでなく、いろいろな種類の本を読むようにしています。	2	(2.9)	4	(2.9)	4	(3.0)	3.3	(2.9)
自己成長力	㉒評価 自分の家庭学習で、できているところとできていないところがわかっています。	3		3		4		3.3	
	㉓得意 自分の得意なことを伸ばすために、課題のほかに自分から進んで家で学習しています。	1	2.7	4	3.7	4	4.0	3.0	3.4
	㉔夢 将来やりたい仕事や行きたい学校の夢をもって、家で学習をしています	4	(2.7)	4	(3.1)	4	(3.0)	4.0	(2.9)



効果

- ・児童とどんな力が必要なのかを共有し、1回目、2回目と自分の変容を見比べることがメタ認知につながった。自分のどんな力が伸びているのかを知り、自己肯定感や家庭学習に対する意欲を高めることができた。
- ・児童の家庭学習の様子を客観的に捉え、指導に生かすことができた。

② AIドリル（すららネット）活用

- ◆ 児童の個別最適な学習を目指し、3年生以上においてAIドリル（すららネット）を導入した。学習単元に取り組むと自動的に自分の課題が分かり、その克服に向けた学習ができた。授業では、補充的な学習や発展的な学習として活用した。また家庭学習では主に自主学習として活用した。



「すららドリル」の一場面



自主的に「すららドリル」に取り組む児童

③ 共通の学習過程の掲示

- ◆ 全学年で授業の基本的な学習過程について統一した。また、教室前方に学習過程を掲示し、児童に授業の流れの見通しをもたせ、学習への安心感や主体性をもたせた。



UDの観点からの色づかい



ガイドより、学習の見通しをたてている。

④ 立腰タイム

◆「立腰」とは、「腰骨を立てる」姿勢を常時保つこと。児童の姿勢改善、姿勢改善による精神力の向上や集中力を高めるため、朝の時間に立腰タイムを実施している。



音楽(放送)に合わせて
以下の内容を実践

1. 目を閉じて静かに
2. 頭の先から引っ張られるように
3. 足の裏を地につけ
4. 腰を立てる

(約1分間)

⑤ ビジョントレーニング

◆1人1台端末等のICT機器を活用する機会が増えるに伴い、視力の低下に対する懸念がある。そこで、午後の授業開始前に、視力の向上、回復を図る「ビジョントレーニング」の時間を設定した。立腰同様、授業前の取組が精神を落ち着かせ、授業に集中することのできる状態を作ることに繋がっている。



音楽(放送)に合わせて以下の内容を実践

1. 両手の親指を立て、手を左右に広げ、親指の爪を左右交互に見る(頭は動かさず眼だけで)。
2. 上下に広げて同様に見る。
3. 片手を左右に動かし、目で追う。
4. 同様に上下、斜めと動かす。
5. 片手で円を描きその親指を目で追う。
6. 前後(近遠)に動かし、視点を合わせる。

(約1分間)

【両眼スキルアップ研究所所長 中村尚広氏 提唱】

⑥ 家庭学習・保護者への啓発

目的 保護者へ「学びに向かう力」の大切さを伝え、学校内外で同じ方向を向いて児童をサポートしながら「学ぶことが好き」な児童を育む。

方法 保護者へ『家庭学習について』及び『家庭学習のすすめ』という2種類の啓発プリントを発行し、実践する。


内容 (※プリントの詳細は「IV 資料」よりご覧いただけます)

プリント①『**家庭学習について**』… 家庭学習の考え方を説明

- ・~~宿題~~ ⇒ 家庭学習へ
- ・なぜ「学びに向かう力・自ら学ぶ力」が必要なのか？
- ・もともと人は「学ぶ」ことが好き！
- ・学校での学習と家庭学習の「すみ分け（役割）」

プリント②『**家庭学習のすすめ**』… 家庭学習の具体的な方法を説明

- ・予習と自主学習
- ・保護者がチェック（学習チェックカード）
- ・読書を楽しむ「楽読（らくどく）」

(低学年) ※1	(中学年)	(高学年)
自由度（選択の幅）		
1. 学校の課題に取り組む。 	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を選んで※2学習する。	1. 学校の課題に取り組む。 2. 自分に合った内容を選んで学習する。 3. 自分で計画し、 <u>自主学習</u> ※3に取り組む。

1 全員が**同じ**「家庭学習の課題（宿題）」… 低学年向き

- 最低限の学力保障，基本を身に付ける良さがある。
- きちんと課題に「取り組む」という習慣や規律を身に付ける良さがある。
- ▲ 児童の特性，習熟度などの差に対応できていない。
- ▲ できるようになることではなく、「取り組む」ことが目的になる傾向がある。

2 各自が**選択**する「家庭学習の課題（宿題）」… 中～高学年向き

- 自分に合った（必要な）学習をすることで自主性が育つ。
- 「できるようになる」ことを目的に学ぶことができる。
- ▲ 自分にどんな学習が必要か，メタ認知力が必要。
- ▲ 自主性，自律性の高まりや学び方を知らない，できない（しない）傾向にある。

3 **自主学習**（＝自由学習）… 自分の興味がある内容に取り組む（児童の特性を生かす）

⑦ 校内研修・OJT

目的 働き方改革の中で、職員の負担感を減らし、かつ指導力向上を目指す。

方法 学習指導案の簡略化及び職員間のスキルアップ OJT を行う。

内容 (※校内用指導案のテンプレートは「IV 資料」よりご覧いただけます)

① 学習指導案の簡略化

- ・ 校内研修の授業公開では、指導案の作成は「本時の展開」にしぼり、A4 用紙 1 枚に収まる型とした。
- ・ 指導案作成より、授業そのものと、実践後のリフレクションを重視し、同学年で同じものを使用したり、何度でも手軽に授業実践を参観したりできるようにした。
- ・ 研究目的に合わせて、部分のみを見せ合うことも可能とした（自学級を 1 時間全て自習とせず気軽に見ることができるようになった）。

第 学年 科学習指導案		令和 年 月 日 () 公開
1 単元名	「 』	場所 年 組 教室 授業者 教諭
2 家庭学習とつなぐ手立て (仮説)		
3 展開 (ICT: F→フォーム・D→デジタル教科書・J→Jamboard・E→エイブタリ・A→AI フルするら)	【わらい】	
観望(目)	子 習	○児童の活動 ・指導のねらいと手立て ※【評価の観点】
子習	め あ て	【めあて】
見直し	自 力 解 決	
話し合い	話 し 合 い	※【思・考・表】
まとめ	ま と め	【まとめ】
振り返り	反 思	※【知・技】
4 板書や支援を要する児童 数 (原簿)	黒 板	

※ 別添 単元計画の載った教本と教科書のコピー（本時のページ）を添付する。

② 講師招へいによる授業改善研修

長崎大学附属小学校教育支援事業を利用し、講師を招いての授業改善研修を実施した。

- ・ 林 龍一郎先生による 6 年 2 組飛び込み授業
- ・ 松尾 勇哉先生による算数科指導理論の講義



③ OJT 研修での職員のスキルアップ

ICT 活用について、職員間でスキルアップのミニ研修を重ね、活用力を高めた。

⑧ 児童会活動

子どもの学びの活性化から生まれた 学びを楽しむ取組

『江上小学校 楽しく学ぼう大作戦!』

本研究の取組を通して、児童は日々、自分の学びに向き合ってきた。「今日の授業が楽しみだな。」「計算が早くできるようになってきた。」「家庭学習で家の方がほめてくれた!」など、聞こえてくる言葉から、家庭学習が児童の生活の中に溶け込んでいること、家庭での学びが授業へつながっていることを感じた。

本校の運営委員会では「学校をよりよくする取組」について話し合い、全校児童で何ができるかを考えている。その中でこんな意見が出た。

「家庭学習をみんながんばっている。楽しく家庭学習に取り組みたり、家庭学習をがんばろうという気持ちを高めたりするために何かできないかな。」

そこで、児童は全校で取り組める企画「楽しく学ぼう大作戦!」を考えた。

取組① 縦割り班でがんばりを見つけよう! 『家庭学習グランプリ』

<内容>

縦割り班で家庭学習の成果を認め合い、全校で共有する取組。

- ① 家庭学習チェックカードや家庭学習で取り組んだ成果物を持ち寄り、互いのよいところをたくさん見つける。
- ② いいと思ったところに花丸を書く。
例:毎日読書に取り組んでいる、様々な種類の本を読んでいる、日記がしっかりと書いている、家庭学習ノートに復習ができている、字を丁寧に書いているなど・・・
- ③ 家庭学習チェックカードまたは成果物に一番多く花丸をもらった人が縦割り班のグランプリとする。
- ④ グランプリになった児童のチェックカードや成果物を写真に撮り、児童玄関に貼る。
- ⑤ グランプリ作品を見て、自分の家庭学習を見直したり、次回のチャレンジへの意欲としたりする。



取組② 頑張るともらえる 『江上ポイントを集めよう!』

<内容>

- ・家庭学習を頑張るとポイントがたまり、頑張りが可視化できる。
- ・発達段階に応じて重点目標を決めている。



<低学年>

「めざせ! どくしょ王!」

- ★1日5分~15分読書をするとポイントがもらえる。
- ★ポイントを集めたら5さつ貸出チケットがもらえる。
- ★最も読書した「どくしょ王」を決める。

<中学年>

「やるぞ!教室コンプリート」

- ★先生から出された家庭学習の課題に取り組むスタンプをもらう。
- ★全て達成した人数が90%を超えた週は教室のアイテムをひとつもらえる。
- ★教室の外枠、黒板、まど、机、いす、ランドセルの6つのアイテムが揃うとコンプリート。
- ★コンプリートした学級は掲示板でお知らせする。

<高学年>

「KG プロジェクト」

(高学年・学習) / (家庭学習・がんばる)

- ★家庭学習をがんばるとポイントがもらえる。
- ★ポイントによってブロンズチケット、シルバーチケット、ゴールドチケットがもらえる。
- ★クラスの人数で合計1000ポイント集めるとさらに学級にレインボーチケットがもらえる。

⑨ 育友会の取組・地域の関わり

目的 育友会員同士で協力し合いながら児童の学びに向かう力の向上を支える。

- 方法**
- 1 保護者が企画し、自主的に育友会活動に取り組む。
 - 2 地域人材を積極的に活用する。

内容

今年度より育友会組織を自主的な参加によって運営する組織へと大きく舵を切ることによって、保護者の主体的な取組が見られた。その中で学校の課題の解決や、児童の科学的な興味関心を高めようと、保護者が主体的・積極的に児童の学びの充実に取り組んでいる。

【夏休み子供科学教室】

- ・令和4年度・5年度と夏季休業中に佐世保高等専門学校より横山温和先生を招いての科学教室

【着衣水泳と水難事故防止安全教室】

- ・海上保安庁の協力を得ての着衣水泳と水難事故防止の安全教室

【読書ボランティアによる読書活動の推進】

- ・読み聞かせ活動、図書室の環境整備、卒業を祝うプロジェクト、行事イベント

【ゲストティーチャー（GT）として授業に参加】

- ・江上文旦の栽培や米作り、サツマイモの栽培など、地域の特色を生かした教育活動

（効果）

- ・児童は実験や体験活動によって学び本来の面白さを体験し、探究力を高め、夏休み作品の自由研究等に反映させることができた。
- ・児童の安心感が高まり、保護者、地域、児童の愛校心を培うことができた。



夏休み科学教室の様子

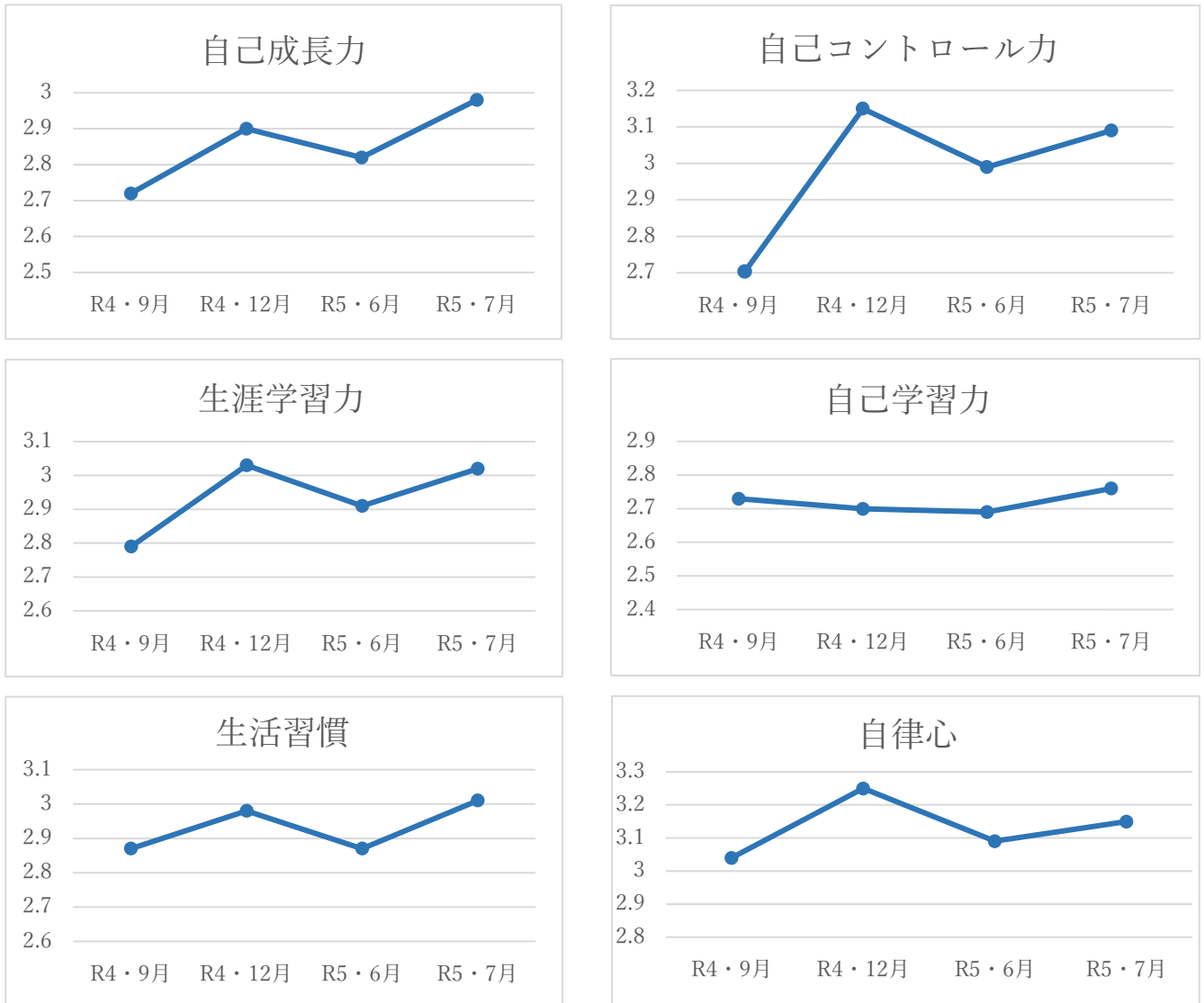
Ⅲ 成果と課題

研究仮説 1

児童に自ら選択させ、個別最適な学びを行う。(学習意欲の向上)

(1) 児童のアンケート結果より (全学年児童 R4~R5 の経年比較)

出典…早稲田大教職大学院田中博之教授, 家庭学習力アンケートを活用



【考察】 ○=成果がみられるもの ●=課題がみられるもの(以下 同)

どの項目においても、研究当初より上昇はしていることから、一定の成果は得られたと考える。

- **自己成長力**は R4, 9月比10%の上昇, **自己コントロール力**は R4, 9月比15%の上昇がみられた。AIドリル(すららドリル)や家庭学習チェックカードの導入により, 児童自ら学習内容を選択し, 個別最適な学びを行うことで, 学習意欲の向上がみられた。
- **生涯学習力**の項目でも成長がみられた。読書の推進や積極的な ICT 活用などの結果と考える。
- **自己学習力**については最も改善がみられるかと予想したが, 伸びは緩やかであった。児童自らが計画的に学習を進めることにまだまだ課題がある。より具体的に個人の目標を立てさせたり, 学習の仕方を教えたりするなど, 指導の改善を行いたい。

- 生活習慣・自律心の更なる向上を目指したい。地域・保護者との連携を深めながら高めていく。

(2) 授業実践（反省）より

① 授業展開（共通の学習過程）

- 教室掲示など、研究仮説の具体的手立てを取ることで、児童が見通しをもつことができ、安心して授業に取り組むようになったり（特性をもつ児童に特に効果的）、自分たちで学習を進めたりできた。

② ガイド学習

- 自分たちでやりたい!という意欲や、自分たちで考える意識が高まった。友達がガイド役をすることで、聞こうという気持ちが出てきた。
- ガイド役も、それを受ける児童も主体的に学ぶ姿が見られた。
- 展開の掲示があるおかげで、児童の見通しが立ちやすく、ガイドもしやすくなっている。
- 児童が自分たちの言葉で発言したり、周りもその思いをくみ取ったり、協力したりしようとして、学級の支持的風土が育まれてきた。
- ガイドの指導や有用性については、浸透が浅いため、今後改善していく必要がある。

③ ICT

- なかなかノートに向かって学習をできない特性を持つ児童が、タブレットにはデジタル教材としての魅力を感じ、主体的に取り組むことができた。
- 早く課題を終えた児童が、隙間時間でのタブレット学習をすることができた。
- Forms でのふり返りを全体に公開することで、わかったことを共有できたり、教師の指導改善につなげたりすることができた。
- Forms でのふり返りは時間もかからず、児童の実態を把握しやすい。
- ソフトの共有機能を生かすことで、協働的学習の場面において、共に考えたり、ヒントを見たりしながら「できるようになろう」という主体的な関わりが見られるようになった。
- 低学年においては、一人1台端末のドリルアプリで本人ができたと回答していても、実際は習得や定着に課題が見られる児童が多かった。
- AIドリルは児童の学びにおいてとても効果的であると実感したが、現状ではまだ高価であるため、継続した導入には課題が残る。

④ その他

- 以前より文字を速く読めるようになり、読書が好きになった児童が増えた。
- 一人1台端末の利用に対して、初期は物珍しさやゲーム感覚で、使用すること自体に興味があったが、慣れてくるにしたがって、有用なら利用し、紙のほうが良ければそちらを利用するといった「学習道具の一つ」としてとらえる意識の変化が見られた。
- 児童が自らに必要な課題を選択できるように、目標や習熟度を客観的かつ具体的に捉えることが可能なもの（チェックリストや表など）を用意して、メタ認知の向上に生かしたい。

研究仮説2

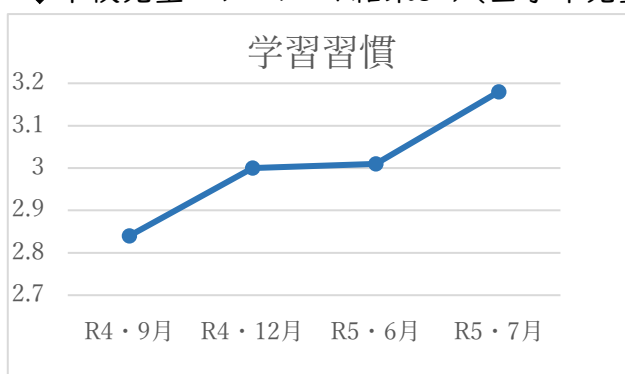
授業と家庭学習をシームレスにつなぐ。(自ら学ぶサイクルの習得)

(1) 児童の実態より

◇ 全国学力・学習状況調査 児童質問紙調査の結果 R5.4月実施

質問番号	質問事項	している・まあまあしているの割合
16	家で自分で計画を立てて勉強していますか	本校 74.5 全国 70.7

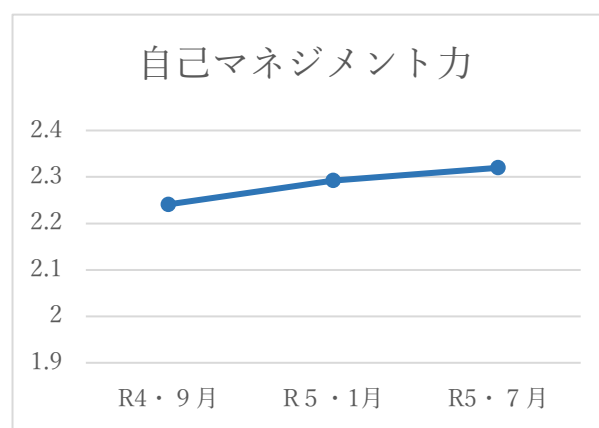
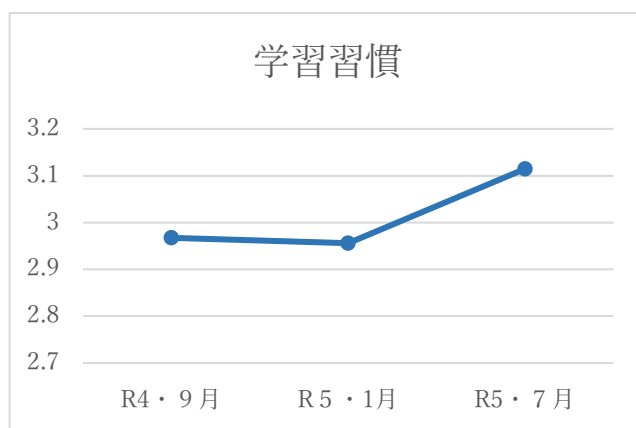
◇ 本校児童のアンケート結果より(全学年児童 R4~R5 の経年比較)



【考察】

- 学習習慣はR4年9月比12%上昇し、自己マネジメント力はR4年9月比13%上昇した。家庭学習チェックカードの記入や授業の中でのふり返りを習慣化するなど、授業と家庭学習をシームレスにつなぐことで児童自ら学ぶサイクルの習得につながったと考える。

(2) 保護者アンケートより



【考察】

- 学習習慣も自己マネジメント力も昨年からすると改善がみられる。個別最適な家庭学習が根付き、保護者の意識も高まったことがうかがえる。チェックカードによって我が子の学習の様子に関心を高めていった結果だと推察する。

- 家庭によって関心には偏りがあった。要因として今年度は学校からの情報発信が少なかったことが考えられる。児童の頑張りに保護者の影響は大きい。今後は保護者の意見、質問等を参考にしながら有効な手立てを考え、家庭に向けて必要な情報を発信し、さらに主体的な関わりを啓発していく必要がある。

(3) 授業実践（反省）より

① 予習

- 予習は、教科書を先行して読む活動を行い、問題把握や見通しに効果があった。
- 予習を習慣化することで、意欲の高い学習集団になった。ガイド学習へのやる気や、授業の理解につながっているのも、良い雰囲気ができつつある。
- 予習をしている児童は、めあてや見通しをもって授業に臨んでいる。
- 予習の内容や質には個人差がある。より児童にとって効果的な予習の内容を追求したい。

② 家庭学習

- 継続して声掛けしていくことで、家庭学習カードの予習の欄に丸がつくようになった。意欲が少しずつ高まっている。
- 復習として出される課題などの提出物を、提出期限に出すという習慣を作りたい。下校後の状況なども考えながら個に応じた指導に根気強く取り組む必要がある。

③ チェックカード

- チェックカードの取組が学びの自立につながった。授業から家庭学習につなぐ大きな手立てであり、自分で自分の課題を設定できることから、授業での意欲を家庭学習への意欲につなげることができた。
- 積み重ねるごとに取組内容や記録の仕方に工夫がみられるなど、児童なりの発展があった。
- 保護者においても、最初は押印だけだった関わりが、徐々に一言励ましのコメントを書いたり、教師への確認や質問が寄せられたり、連携強化につながった。中には夏休みに体験学習の場に連れ出したり、一緒に自由研究をしたりと積極的な関わりが見られた。

④ その他

- 学びが定着するにしたがってクラスがまとまっていき、支持的な風土が醸成されつつある。
- 予習・ガイド・学習規律が未定着の児童もいる。学習内容の選択等、児童の実態に応じた指導をしていく為には、教師のさらなるスキルアップが必要である。
- 児童や教師、家庭の努力を学力調査の結果につなげたいが、まだ成果としては表れていない。12月に一斉に調査をするので、そこで成果を上げ、児童の自信としたい。

以上、各アンケートや実践授業の反省から、授業と家庭学習とをシームレスにつなぎ、個別最適な学びを行う本校の「学びの習慣化メソッド」について一定の成果がみられたと考える。この学びのメソッドを今後も継続し、定着・深化を図ることで、児童が自ら学び続け、将来につながられるよう、さらに研究を深めていきたい。

おわりに

本研究では、学びの習慣化メソッドづくりにおいて、授業と家庭学習との関連付けの重要性に焦点を当てました。授業内での学びを家庭で継続し、さらに次の授業へつなぐことが、より効果的な学習体験をもたらす可能性を追求したのです。

授業と家庭学習を有機的に結びつけることにより、児童は教室での学びを基盤としつつ、自宅での学習を通じてその理解をより一層深めることができます。しかし、その実現のためには、学校と保護者が連携し、適切な誘導とサポートを提供することが必要です。本校の研究では、育友会を中心とした家庭や地域の深いご理解と大きなご協力を得ることで実践が進みました。

今後も、児童の学ぶ意欲を最大限に引き出し、児童が自分の夢や将来の目標の実現に向け、自ら学び続けることができるよう、学校、家庭そして地域の連携を深めながら研究を深めていく所存です。

最後に、本研究が授業と家庭学習の統合に向けた一歩となり、教育の質を向上させる一助となることを願ってやみません。皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

令和5年11月17日

佐世保市立江上小学校

教頭 川崎 武弘

～参考文献～

- 新興出版社啓林館 2020年
「わくわく算数」 算数科教科書及び指導書 1～6年
- 文部科学省 2017年
「小学校学習指導要領解説 算数編」
- 佐世保市立中里小学校 2022年
「令和3・4年度長崎県教育委員会・佐世保市教育委員会指定
ICTを活用した教育 研究紀要」
- 早稲田大教職大学院教授 田中博之 2013年
「家庭学習を習慣化することで育つ『自己マネジメント力』を生涯の宝に」
VIEW2 | [小学館] 2013Vol.3 記事
- 田中博之編著 2017年
「小・中学校の家庭学習アイデアブック」 明治図書出版

研 究 同 人

令和 4 年度	令和 5 年度
校 長	堤 祐子
教 頭	道下 六朗
1 年 1 組	松尾 幸信
1 年 2 組	久保 和代
2 年 1 組	東 邦彦
2 年 2 組	濱崎寿美子
3 年 1 組	中山 律子
3 年 2 組	大山 航平
4 年 1 組	吉田志津子
4 年 2 組	山口 英恵
5 年 1 組	佐藤 晶世
5 年 2 組	角田 総志
6 年 1 組	松村 誠
6 年 2 組	古川 慎悟
あじさい	貞松 有紀
たんぽぽ	久野千恵子
こすもす	仁部 直美
専科(教務)	田嶋 匡俊
養護教諭	原 陽子
事 務	山口 祥希
少人数指導	田中 紗織
特別支援	大浦嘉代子
学校司書	出口 綾
ICT 支援	南 勝彦
初任者指導	田口 哲久
スクールサポート スタッフ	宇津亜希子
国際理解指導員	井上 未来
	北川 春華
学校管理員	岩田 雄二
調理士	岡村 英子
校 長	堤 祐子
教 頭	川崎 武弘
1 年 1 組	久保 和代
1 年 2 組	山下 光子
2 年 1 組	東 邦彦
2 年 2 組	松本 弥生
3 年 1 組	平島 恭子
3 年 2 組	角田 総志
4 年 1 組	佐藤 晶世
4 年 2 組	松尾 幸信
5 年 1 組	大山 航平
5 年 2 組	古川 慎悟
6 年 1 組	松村 誠
6 年 2 組	吉田 朋代
あじさい	竹川 直子
たんぽぽ	久野千恵子
こすもす	藤瀬 安孝
専科(教務)	田嶋 匡俊
養護教諭	原 陽子
事 務	湯川 優子
非常勤講師	石瀧 明子
少人数指導	戸田 清
特別支援	大浦嘉代子
学校司書	浦田 友美
ICT 支援	高島 成治
スクールサポート スタッフ	宇津亜希子
国際理解指導員	北川 春華
学校管理員	小田 年晴
調理士	朝永 真弓

